

そしてまた意地になる。それでもそのうち一段とカッコがついてくると自分のクルマがほしくなり、とうとう3・2&Zをサファリ仕様のでき損ないのようなダートトラに改造してしまいました。そして「ダートトラに出るんだ」と毎晩のように林道へ練習に行ったのですがある日、調子に乗りすぎて谷へ転落。ダートラ出場の夢はあっさり消えてしまいました。それからしばらくは仕方なくおとなしくしていたのですが、そのうちAE86に乗るようになり、今度は峠通いが始まりました。別にレースに出たいという特別な感情はまったくありませんでしたが、ただ走ることに上達していくことが楽しいといった感覚でした。そんなある日、友人の誘いで中山サーキットのNCHKタイムトライアルに出場することになったのです。クルマはLSDとアルミホイールが入った程度だったので、レヘルが低かったこともあって連戦連勝。「これほんまにノーマルか?」と聞かれるのが唯一の楽しみになっていました。こうなるとう自信の固まりで「俺、ひよっとしたら天才と違うかなーっ」なんて真剣に思い込んでしまったのです。「お山の大将」の見本がその頃の僕でした。そして、その頃からプロのレーサーになりたいと本気で考え出します。

そこでAE86を家にむりやり売っちゃ、会社勤めが終わってから夜中はドラッグの運転手という二重生活が始まりました。そして24歳の6月、ハヤシ420JというFJマシンをなんとかローンで手に入れたことかてきたのです。そして、初めてのスロツ走行。しかし、ここでまたもや僕の自信はことごとく打ち砕かれることになりました。次元が違すぎるのです。クルマがハコからフォーミュラに変わったせいもあるかもしれませんが、レヘルもスピードもまったく別世界という感じでした。直線でもフラフラするし、コーナーでハンドルを切るとスピンする。カウンタ―を当てても止まらない。それでもほかのドライバーはとんでもないスピードでコーナーに追いつ込み、4輪を滑らせながらクリアして、

く行く。それでも2回、3回と練習を重ねるごとに、だんだん慣れてタイムもどんどん上がってきました。そして、またまた調子に乗ってしまったのです。忘れもしない8月14日西コースの走行、この日、僕はとんでもない事故を起こしてしまいます。デグナーカーで立ち上がりスピン、そのままイン側に巻き込んで、クラッシュして止まっているマシンのミッション部分に真横から激突、マシンは大破、僕も左大腿骨、骨盤、あばらなどを骨折し、全身打撲に多量内出血、2日間は命の保証はできないといわれるほどの重傷。意識はあったが胸をはさまれてクルマからは出られないし、引きずり出してもらったのはいいが、左足はふとももから直角に曲がってガクガク、おまけにブレーキペダルつま先が引うかかって足が出せない。息はできないし、おなかもやたらと痛い。周りの景色は黄色と黒に見えるだけ。そして「あーあ、やっってしまった。

enji

